

2023年度評価シート

	評価の観点	4	3	2	1	得点
課題設定	動機と目的	動機や目的が明確であり、研究価値を含めて説明できている。	動機や目的が明確であり、十分に説明できている。	動機や目的が明確であるが、十分に説明できていない。	動機や目的が明確ではない、または研究内容と一致しない。	
	研究内容と先行研究との位置付け	文献や論文の内容をひまえて、研究内容がよく纏られている。	文献や論文を調べ、それらとの位置付けや関連付けができています。	文献や論文を調べているが、それらとの位置付けが明確ではない。	参考にした書籍や論文が不十分である。	
研究基礎力	達成目標の妥当性	課題に対して適切かつ具体的な目標が設定されている。	研究の具体的な到達目標が定められている。	研究の到達目標が定められているが、抽象的だったり、曖昧である。	研究の到達目標が定められていない、あるいは不明瞭である。	
	計画性	この先の展望も含めた研究の道筋が示されており極めて計画性がある。	研究はいくつかの段階に分けて進められており、計画性が認められる。	研究の方向性は定まっているが、段階ごとにすすめられた形跡がなく、計画性が認められない。	研究の方向性が定まっておらず、計画を立てる段階まで到達できていない。	
	研究手法	研究目標を達成するための適切な手法が選択されている、または模索されている。	改善の余地はあるが、論理的で適切な手法を用いて研究を進めている。	研究目標に合致しない研究手法を用いている、思いつきで研究を進めている。	研究を進めていると言える段階にはない、研究手法が不適切である。	
	研究結果の妥当性	到達目標に沿った結果や結論、成果が極めて明確かつ論理的に示されている。	到達目標に沿った結果や結論、成果が明確に示されている。	結果や結論、成果が示されているが研究の到達目標からのずれが見られたり、部分的に論理的飛躍がみられる。	結果や結論、成果などが示されていない。実験・調査等の事実と合致しない結果を導いている。	
発表	適切かつ具体的な成果の提示	研究の到達目標に沿った実験結果や成果物等を、具体的かつ内容が正確に伝わる適切な形態で示すことが出来る。	研究の到達目標に沿った実験結果や成果物を具体的に示すことが出来る。	実験結果や成果物を示すことはできていないが、その途中経過を具体的に示すことが出来る。	途中経過も含めた具体的な実験結果や成果物を示すことが出来ない。	
	発表の技法	聴衆を意識した分かりやすい言葉選びと自信に満ちた態度で卓越した発表技法である。	事前によく準備されており、聴衆を意識して発表することが出来ている。	事前の準備の形跡は見られるが、原稿を読むだけのよう聴衆を意識できていない。	明らかに事前の準備が不足しており、発表技法の向上が求められる。	
加点要素	加点要素(各1点)	独創性や独自性がみられる。	質疑応答での対応が適切である。	社会貢献を実践できている、あるいは学術的価値が高い研究である。		
コメント						合計